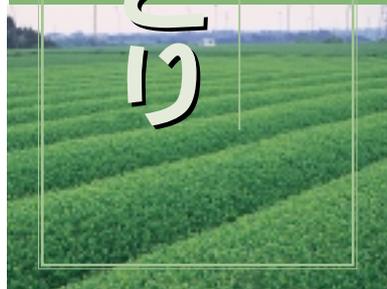


耐病性にすぐれ、特徴のある香味。

# かなやみどり



かなやみどりは土地を選びますが、病気に強く、芽立ちも良好で外観・内質ともにすぐれた中晩生品種です。

## 品種の来歴と特徴

昭和24年農林省茶試(現独立行政法人野菜茶業研究所)で「国茶S6」を母親に「やぶきた」を父親として交配を行い、その交雑実生中から選抜され昭和45年品種として農林登録されました。「やぶきた」にくらべて発芽期が7日前後、摘採期が4日前後遅い中晩生種です。耐病性は、炭そ病と輪斑病に「やや強」、もち病と赤焼病に「強」です。

## 品質の特性

煎茶の品質としては外観がやや濃い緑色で、水色は濃く香味に特色があり、内質は優れています。

## 栽培上の注意点

成葉の大きさは「やぶきた」より小さく、長だ円形で光沢に富み濃緑色を呈します。芽立ちには良好で芽数が多く芽数型となります。樹姿は開張型で側枝の生育は旺盛ですが、「やぶきた」に比べ枝条の節間がやや短くなります。幼木期における生育は良く、株張りの広がりも早いため仕立ては容易です。

しかし、成園後の生育がやや劣り機械摘みや鉄摘みを繰り返すと成葉や摘芽長が小さくなるので、摘採回数をあまり多くしないように注意しましょう。また、粘土質や排水不良土

では生育が劣る場合もあるため、そのような場所では土壌改善を行う必要があります。

## 加工上の注意点

品質は色沢が黒緑色になりやすいので、蒸しは強めにし、精揉茶温、乾燥茶温は標準製茶法に比較してやや低くします。

## 普及および栽培適地

煎茶生産地向けの品種です。摘採期が「やぶきた」より4日程度遅く耐寒性が強いいため、晩霜害を受ける地帯や寒冷地にも適します。

## 苗木の入手方法

種苗法登録品種ではありませんので取扱いは自由です。農協を通じて経済連へ申し込んでください。

## 命名の由来

「やぶきた」に匹敵する優良品種として多くの候補名が上げられましたが、金谷において素晴らしい煎茶用品種が育成されたということで、「かなやみどり」と命名されました。



品種名	育成年	種苗登録の有無	育成場所	来歴	
				国茶S6	やぶきた
かなやみどり	1970	無	野菜茶試	国茶S6	やぶきた



早晩性	樹姿	樹勢	収量性	品質			耐寒性 (赤枯れ)	耐病性 (炭そ病)
				色沢	香気	滋味		
中晩生	開張	中	やや多	上	上	上	やや強	やや強